

楽々しく食卓

テーブルマナーあれこれ



雰囲気の良いレストランでピカピカのシルバヤグラスがならび、気持ちのいいサービスで美味しい食卓を頂く。最高に幸せですね。

でも日本人、特に女性の中にはテーブルマナーばかり気にし過ぎて、せっかくの美味しい食事、あんまり良く味わえなかったという人が案外多いですね。

卒業前にテーブルマナーの実習をしてほしいというので、ホテルやレストランでのアルバイトがたびたび舞い込んできました。こちらは美味しい食事ができ、お金まで貰えるんですから、ホイホイと出掛けたいものです。

自分一人で食卓を頂くには、マナーはあんまり必要ではないわけですから、基本的には複数の方が、お互いに美しく、楽しく、スムーズに食事するのに最も都合がいい、ということを確認されてきたのがテーブルマナーですから、これだけあればいけないというのはいらないです(けっして合理的に出来てるんですよ)。一応これは知っていたら便利というのをいくつか。

まずテーブルには、向かい合って座るのが一般的ですね。ですから向かい側の相手に刃を向けず、ナイフの刃は自分のほうに向けず。これは、昔は本当の剣で肉を切っていた時の名残で、洋の東西を問わないようです。

次に、サービスする人の仕方を知っているととても便利です。食べ物のサービスは座っている人の左側から、飲み物は右側からが原則です。だから飲み物は右手で飲んで、右側に置かないと、ウェイターの方はこまります。

結婚式など、ズラッと並んでいるときなどに、一人でも左で飲まれたら、ゴチャゴチャになってしまいます。食べ物がサービスされる時、左の肩を少し開けてやったらウェイターは大変助かります。

では、スープはどちらから来るかといえますと左です。そうですスープは食べるんです。英語でも「I HAVE SOUP」といい、決して「DRINK SOUP」とはいけません。スープは音を立てないと飲めないという人がいますが、その人は考え違いをしていると思います。飲むとすると、どうしても音が出ます。アイスクリームやチャーハンをバックリ食べる要領で食べたら、音がしないというよりは、音を立てることができません。試してみてください。

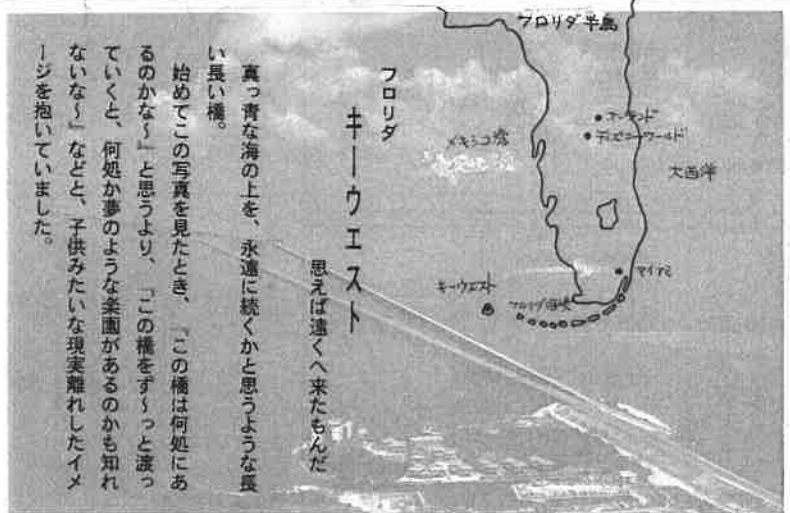
しかし欧米とは歴史や文化が違うわけですから、あんまり気にし過ぎて、肝心の食事が喉を通らなかつたらつまずきません。テーブルマナーの目的は、皆で楽しく美味しくいただくことです。

外国人が蕎麦やラーメンをスパゲッティみたいに、箸にくるくる巻いて食べているのを見ても、オイオイとかアレーと思うぐらいで、あんまり不愉快には思いませんもの。だいたい彼等には、食べ物を感じ込むという習慣がないのです。



茶のみ話

ニット屋になる前は海外旅行の添乗員でした。チャンスがあったら是非お薦め



真つ青な海の上を、永遠に続くかと思つような長い長い橋。始めてこの写真を見たとき、「この橋は何処にあるのかな」と思うより、「この橋をすうと渡っていくと、何処か夢のような楽園があるのかも知れないな」と、子供みたいな現実離れしたイメージを抱いていました。

この橋の行き着く先は、キーウエストという小さな島。実は、ここがアメリカ本土最南端なんです。この響きのいいキーウエストは、底抜けに明るく、カリブの雰囲気のある常夏のリゾートとして、アメリカ人の中でもとても人気の所なんです。

自転車でも一時間もあれば一周できるほどの小さな島だけ、このキーウエストは、ノーベル賞作家ヘミングウェイが「武器よさらば」をはじめ、誰が為に鐘は鳴る。」キリマンジャロの雪」などの作品を書き上げた所。今もその邸、ヘミングウェイ・ホームが国の史跡として残っています。

キーウエストへはマイアミから国道一号線を終点(起点?)まで南下します。

このルートは別名海上ハイウェイと呼ばれ、メキシコ湾に点々と浮かぶ島を、四十以上の橋で結んで

います。中でも一番長いのがセブンマイル・ブリッジ、その名の通り七マイル(十一km)も続く長い長い橋なのです。

この橋を走っていて、対向車がないと南へ向かっているのか、東へ走っているのか分らなくなり、心細くなってきました。

なんだか、未知の世界へ向かって走っているような錯覚を覚えます。

どうも、はじっこやてっぺんなどというところは旅愁を駆り立てるもので、武田鉄也じゃないけれど「思えば遠くへ来たはくもほくんだ」などと、思わず歌い出したくなる気分です。

昔のキューバ航路の棧橋に、ピアハウスという名のホテルがあります。ピアとは棧橋の意味。まさに棧橋に建ったホテルです。

ここは、メキシコ湾に沈む夕陽を眺める絶好のポイントとして知られ、白塗りのコロニースタイルのこのホテルは、ブライベートビーチも有り、すぐ近くがヨットハーバーで環境も雰囲気も抜群です。特にレストランは海上にあり食事している下を小魚たちが泳ぎ回っています。

デッキシューズにコックトランプとTシャツでプランチをとりながら、大物釣りのトロリング船の出入りするのを見ていると、いまにもパイプをくわえたヘミングウェイが出てきそうです。

ただ、一泊しか出来なかったのが残念です。

*アメリカの国道番号は、奇数は南北、偶数は東西を表示するのでとても分かりやすい。

このルートは南はキーウエストから北はカナダ国境まで続いています。

